

## 千葉県立中央博物館

千葉にやって来た幻のクジラから豊かな千葉の海を知る

実施期間：平成30年9月1日（土）～平成31年2月25日（月）



### 【事業の内容・目的】

- 月1回の連続講座を実施し、受講生自らツノシマクジラのイベント・展示を作ってもらい、海の未知なる領域の研究の紹介や博物館の教育普及活動の体験を通して海に関する研究者や教育者への道を示すための機会とした。
- 一般的に人気のある対象であるクジラを題材にし、『海の学びへのきっかけを作り、海の豊かさ、大切さを学んでもらう』。また、千葉県の豊かな海を守ることの重要性を周知することを目指した。なお、このためのイベント・展示を連続講座受講者とともに作成した。
- 盲学校の生徒に、クジラの実物骨格や3Dプリントした縮小模型に触ってもらうことで、海の生物であるクジラの大きさや形の不思議を知ってもらい、バリアフリーな海の学びの機会を提供した。

## 活動の様子

### 1. 連続講座「博物館のお仕事～幻のクジラ ツノシマクジラの展示・イベントを作る～」

【開催日時】平成30年9月1日（土）～平成31年2月17日（日）

第一回：平成30年9月1日（土）10:00～12:30

第二回：平成30年9月29日（土）11:00～12:30

第三回：平成30年10月7日（日）10:00～15:30

第四回：平成30年11月10日（土）13:00～15:30

第五回：平成30年12月8日（土）13:00～15:30

第六回：平成31年1月19日（土）13:00～15:30

第七回：平成31年2月16日（土）11:00～16:00

：平成31年2月17日（日）11:00～16:00

ミニトピックス展：平成31年1月20日（日）～

平成31年2月17日（日）

【開催場所】千葉県立中央博物館 講堂、研修室、1階ホール、展示室  
（第二回のみ：和田浦漁港、和田浦海水浴場、道の駅和田浦WA・O）

【参加者数】連続講座：計163人（第一回：25人、第二回：20人、第三回：23人、第四回：18人、第五回：21人、第六回：23人、第七回：（16日）19人、（17日）14人）

（募集人数20人のところ、30人が申込参加：中学生7人、高校生2人、大学生11人、大人10人）

ミニトピックス展見学者：4232人

【活動内容・目的】

- 希少種で謎の多いツノシマクジラをテーマとすることで、海洋生物や海に関する研究や教育に興味を持つ機会を提供した。
- クジラについて学ぶ講座やクジラの座礁現場の見学、クジラに関連する展示の見学を通してクジラを身近に感じ、海の大切さを理解してもらうことを目指した。
- 博物館等の展示の見学、イベントへのスタッフとしての参加から博物館での教育普及活動の体験してもらい、クジラや海の大切さを普及していく必要性を理解してもらうことを目的とした。また、若齢層の参加が多かったため、海に関する研究者や教育者を目指すきっかけを作ることも目指した。
- 受講生自ら展示・イベントを作るため、自発的に海について調べて学ぶ機会となり、今後も海に興味を持ち続けてもらうきっかけとなることを目指した。



講義中の様子



行事にスタッフとして参加した時の様子



クジラの座礁現場を見学



シロナガスクジラの骨格の説明

クジラの生物学について、座学だけでなく、実物のクジラの骨格を手にとって触り、実際にクジラが座礁したことのある場所等を見学し、クジラや海に興味を持ってもらうとともに身近に感じてもらい、海に親しみを持ってもらった。希少種であるツノシマクジラを扱うことで、海には未知領域が多いことを知ってもらい、研究の重要性を実感してもらった。また、行事にスタッフとして参加してもらうことで、海に関する教育の意義などを感じてもらった。



展示のレイアウトを考えている様子



完成したミニトピックス展「ツノシマクジラ  
～千葉にやってきた幻のクジラ～」

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

ミニトピックス展「ツノシマクジラ ～千葉にやってきた幻のクジラ～」の解説パネルの一部を参加者に作成してもらった。クジラについて調べ、来館者が興味を持つような内容を考え、わかりやすく伝えることを考えて解説パネルを作成してもらった。そのため、自らがクジラをはじめとする海の生物や環境を知ろうとするだけでなく、博物館を訪れる幅広い年齢層の来館者に海について伝えることを考え、実践する機会となった。

また、参加者の作成した解説パネルはツノシマクジラの解説リーフレットとして印刷し、展示室で無料配布し、多くの来館者が海について興味を持つきっかけとなった。



イベントのリハーサル



自らイベントを運営中

イベント「クジラ教室～海の巨大生物の秘密を探ろう～」の内容から運営までを参加者にやってもらった。小学校低学年でも楽しみながらクジラや海について学べるよう、どのようなイベントにするかから参加者に考えてもらった。ビンゴ形式のクイズ大会にし、クイズの難易度や内容、出題順まで全て参加者自らが決めた。クジラをきっかけとした海の学びを作る体験をしてもらうことで、海の大切さを伝えることや海に親しみを持ってもらうための重要性を実感してもらった。

### 【参加者の声】

- クジラから海洋資源を守るという連鎖的な学びができた
- クジラが身近にいるものであることがわかった
- 自分でも海に行き行って生き物に触れてみたい

## 2. クジラ教室～海の巨大生物の秘密を探ろう～

【開催日時】平成31年2月16日（土）13:30～15:30

平成31年2月17日（日）13:30～15:30

【開催場所】2月16日：千葉県立中央博物館 研修室、展示室

2月17日：千葉県立中央博物館 講堂、展示室

【参加者数】計48人（2月16日：12人、2月17日：36人）

（募集人数：各回15人 計30人）

【活動内容・目的】

- クジラを通して海を守る大切さを理解してもらおうきっかけとした。
- 千葉に漂着したツノシマクジラについても扱い、実物の頭骨の見学・回収作業の説明から、地元の海への関心を引き出し、海に親しみを持ってもらうことを目指した。



会場の様子（2月16日）



会場の様子（2月17日）



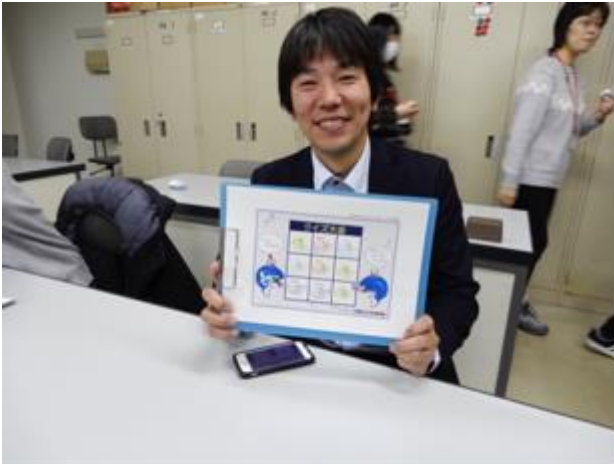
正解者のビンゴカードにはスタンプ



実物標本を見ているところ

クジラに関するクイズ大会をビンゴ形式で行った。ビンゴにすることで低年齢層でも飽きずにクイズに参加してもらい、クジラからクジラの餌まで海の生き物が関わりあっていることを知ってもらった。また、クイズの正解発表時の解説では、関連する実物標本を実際に触って確認してもらうことで、よりクジラに親しみを持ってもらった。また、ビンゴした人にはポストカード2種類を渡した（全員ビンゴした）。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



クイズ全問正解者



休憩時間にクジラの歯を観察

クイズ大会後の10分間の休憩でも、参加者はクイズの解説中に回した標本をじっくり見ており、このクイズで海に興味関心が持てるように促せた。



ツノシマクジラ頭骨の解説



標本が展示されるまでを解説

ツノシマクジラの希少性や、頭骨の特徴などを説明し、地元千葉の海は希少種も生息する豊かな海であることを知ってもらった。また、展示しているツノシマクジラの骨格の発見から回収・修復・展示に至るまでの経緯を写真で紹介することで目の前の標本に親しみを持ってもらい、クジラや海の研究に興味を持ってもらう機会となった。

### 【参加者の声】

- 海には未知の世界が広がっていることを知った
- 海をきれいにしてクジラを守りたい
- 千葉の海に興味を湧いた

### 3. 盲学校の生徒を対象にしたクジラ講座

【開催日時】平成31年2月25日（月）9:50～15:00

【開催場所】千葉県立千葉盲学校（幼稚部～高等部）

【参加者数】計52人（授業16人（小学部（高学年）～高等部）、授業外18人（幼稚部～小学部（低学年））、先生18人）

【活動内容・目的】

- ヒトとクジラを比較することで、同じ哺乳類が海に適応していることや、クジラの餌の紹介から海にはいろいろな生物が関わり合いながら住んでいることを知ってもらった。
- 実物の骨格標本を用いることで、実際の大きさを実感してもらい、大きな生き物が海に暮らしていることを体感してもらった。
- 3Dプリントによる頭骨縮小模型と、実物の歯やクジラヒゲを組み合わせて解説することで、全体像を把握しながら実物の大きさや海の生き物の生活を想像・実感してもらった。



会場の様子



ツノシマクジラ骨格以外の標本など（一部）



フィギュアで魚とクジラの違いを知る



イルカの胸ビレと自分の腕の骨を比較

オオカミ・サメ・クジラのフィギュアを触ってもらい、クジラは、形は魚に似ているが哺乳類であることを説明した。イルカの胸ビレの骨と人体模型の腕の骨に触ってもらい、クジラは自分と同じ哺乳類であることを知り、クジラに親しみを持ってもらうとともに海の生き物の面白さを知ってもらう機会となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



ツノシマクジラの体長9mを歩いて実感

実際に歩いてクジラの大きさを体感してもらった。頸椎・胸椎・腰椎・尾椎・肋骨や胸ビレの骨を触ることでその大きさを体感しながらも、ヒトと同じ哺乳類であることを実感し、親しみを持ってもらった。本物の骨の匂いや質感も感じることで、海には不思議な生き物が生息していて、未知の世界が広がっていることを知ってもらった。



クジラの頸椎を触る



クジラの背骨を触る



3D プリントによるクジラの下顎と  
実物の歯と一緒に触る

大きすぎて全体像をつかむのが難しい大型鯨類については、3Dプリンタで骨の縮小模型を作成した。クジラの下顎の縮小模型と縮小模型の中にもある歯の実物標本を組み合わせることで、全体像をつかみながらクジラの実物の大きさも体感してもらった。さらに、陸棲哺乳類の骨との比較やクジラヒゲを触ることで、クジラの食性について学び、海の生物や環境について知ってもらった。

### 【参加者の声】。

- 海にはたくさんの生き物がいることがわかった
- 海の生き物の大きさが予想以上だった
- 海は不思議がいっぱいで、海の世界を見てみたい



## 【事業全体のまとめ】

本サポート事業により世界的希少種であるツノシマクジラの骨格のハンズ・オン標本を製作し、関連する行事を行うことができた。興味を引きやすく、謎の多い「希少種」を対象としてイベントや連続講座を実施できたため、海への関心を高めることができた。

盲学校でのクジラ講座では、多くの生徒に講座を受けてもらうために盲学校へクジラの骨格を運搬して講座を実施した。クジラの全身骨格のハンズ・オン標本としては体長 5m 前後のものが多い中、体長 9m ものクジラの全身骨格のハンズ・オン標本を製作できたことはクジラの大きさを体感する機会を与えられた。また、教室の大きさや運搬可能なサイズとしても体長 9m のクジラは最大限であり、出前講座としては最大限の海の学びの場を提供できた。

参加者のアンケートでは、海を守ろうと思う、もっと海を知りたくなった、という声が大半であり、海の学びとしては概ね成功したと考えられる。また、連続講座の受講生が展示やイベントを作ったため、専門的になりすぎないわかりやすい展示・イベントだったという感想ももらっており、効果的な海の学びに繋がったと考えられる。

## 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 千葉県立千葉盲学校	生徒を対象にした授業の実施
2. 千葉県立中央博物館分館 海の博物館	資料の借用、連続講座第2回の雨天時目的地
3. 帝京科学大学	連続講座の教育効果の分析
4.	
5.	

## 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. チラシ	連続講座「博物館のお仕事～幻のクジラ ツノシマクジラのイベント・展示を作る～」、2018年7月
2. 千葉県立中央博物館HP	連続講座(参加無料)「博物館のお仕事～幻のクジラ ツノシマクジラのイベント・展示を作る～」、2018年7月31日
3. 千葉県立中央博物館HP	ミニトピックス展 ツノシマクジラ ～千葉にやってきた幻のクジラ～、2019年1月16日
4. 千葉県立中央博物館平成 30 年度行事案内	平成 30 年度行事カレンダー、2018年3月
5. 千葉県立中央博物館公式 Twitter	ミニトピックス展 ツノシマクジラ ～千葉にやってきた幻のクジラ～、2019年

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。